

## 令和3年度 自己点検・自己評価結果

### 目次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	2
(3)	教育活動	
	介護福祉学科.....	4
	作業療法学科.....	6
	理学療法学科.....	9
	看護学科.....	12
	助産学科.....	14
	看護学科通信課程.....	17
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	20
(4)	学修成果	
	介護福祉学科.....	22
	作業療法学科.....	23
	理学療法学科.....	25
	看護学科.....	26
	助産学科.....	27
	看護学科通信課程.....	28
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	29
(5)	学生支援.....	30
(6)	教育環境.....	32
(7)	学生の受入れ募集.....	33
(8)	財務.....	34
(9)	法令等の遵守.....	35
(10)	社会貢献・地域貢献.....	36

## 令和3年度自己点検・自己評価報告書作成に際して

### 1. 評価担当

①教育理念・目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	総務課
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

### 2. 評価数値の意味

- 4 … 適切に対応している。  
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

## (1) 教育理念・目標

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか）	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	4
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 本校は初代理事長が示した建学の精神のもと、教育理念・教育目的・教育目標を定め「学習の手引」にまとめており、福祉・医療分野において社会のニーズに対応できる人材の育成を目指している。

2. 職業教育にふさわしい高度な専門知識、技術教育は勿論、これからは特に必要かつ注目されている福祉・医療人として求められる豊かな感性、人に寄り添える人間性、社会貢献への使命感を育むことに努めている。また、各福祉・医療分野の強みを結集して人をケアする時代に即して、チーム医療を支えるべく多職種連携教育（IPE）に取り組んでいる。

3. 高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校となることを目指して教育の質の向上に取り組んでいる。

近年は法人全体の中長期事業計画と単年度の運営目標・計画を「ビジョン」として定め、それを基に各学科長等が自学科の将来を見据えた運営計画を立てている。また、全体でビジョン発表会を実施する事により教職員の自覚と各学科・部署の運営改善を新たにしている。

4. 本校の教育理念及び各学科の教育目標、ならびに、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーは「学習の手引」やホームページに記載されている。また、高校生・保護者には進学の大きなポイントとなるオープンキャンパスにおいて詳しく説明している。コロナ禍にある中、数少ない行事等において参加の学生・保護者に本校の在り様、目標等を説明し続けている。

5. 関連業界・実習施設等から選出された外部委員を交えた教育課程委員会や、実習施設訪問等の機会を通じて得られる意見・情報をもとに方向づけ及び見直しを行っている。

### 【展望】

新型コロナウイルス感染拡大で医療・福祉人の姿、使命感、期待が改めてクローズアップされた。それに応えられる人材育成という原点に立ち返ってきめ細やかな教育を施せる環境、教育体制を法人一体となって確立していく。高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校、地域から期待と信頼の厚い専門学校となることを目指す。

## (2) 学校運営

Q	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	4
8	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 中期ビジョン「選ばれる学校になるための教育の質の向上と経営の好循環」のもと、上層部によるビジョン委員会にて、運営に関する重点事項が定期的に審議されている。その過程を踏んだ上で「学校運営方針」を作成し、学科長はその学校運営方針に基づき「学科運営計画」を作成している。
2. 年度毎に「事業計画」を作成し、年度初めの全体会議で各科の運営方針発表を通して発表することにより、各科の自覚と共通理解に努めている。学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づくものを精査してから理事会の承認を得ている。
3. 本校の組織運営及び管理は、法人の理事会・評議会のもと、学校においては校長を責任者、学校運営会議を議決機関とし意思決定を行っている。また本校の校務分掌組織は規則等において明記されている。
4. 法人本部が所管しており、基準や手続き等を整備して適切に実施している。また、2019年度より人事考課制度を実施している。
5. 意思決定のプロセスと仕組みは制度化しており、組織図及び校務分掌によって業務範囲が示されている。また、各学科では専任教員を主体とする会議体として随時教務会議を開催し、学科内役割分担を適切に行い、運営に当たっている。
6. 専修学校基準及び養成施設指定規則を遵守し運営している。また倫理委員会の開催、学生サポートセンターと校長・統括部長との連携による指導などによってコンプライアンス体制を構築していった。
7. ホームページのトピックや情報公開ページにて、本校の教育活動・運営状況等を社会に対して広く公開している。特にコロナ禍においては、スピード感ある情報発信を心がけた。また、保護者で組織された後援会が発行している会報においても教育活動をはじめとする各種情報を発信している。

8. 学内の情報共有、伝達は「サイボウズ」という情報管理システムにより充実が図られている。また、必要に応じてテレワークの導入も問題なく実施できた。また、コロナ禍での対面授業と遠隔授業の両方を用いた学生の「学習機会の保障」も確保に努めることができた。

#### 【展望】

体制やシステムの整備は充実してきている中で、職員一人ひとりが所属している部署だけでなく法人全体を俯瞰して運営に参加するという機運を醸成していく。

巣立つ卒業生の姿に遣り甲斐をもつ職員に、働き甲斐ある職場環境を一層整える。

長引くコロナ禍にあっても、学生・保護者・関係施設病院・地域にきめ細やかな誠意ある対応を心がけ、本校への信頼、期待、支援に繋げる。

### (3) 教育活動 介護福祉学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1、2.

厚生労働省で定められた基準に則り、カリキュラムを編成している。3年度から、カリキュラム改正に準じた授業内容を開始した。また、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを策定し、その目的達成に向けた授業を盛り込んでいる。

3. 各学年を前期・後期に分け、各科目の到達目標や実習を相互に関連させながらカリキュラムを編成している。また指定規則改正等によるカリキュラム変更の際は、教育課程編成委員会にて内容を精査している。

4. 施設実習での職業教育の視点に立ち、知識や技術だけでなく、社会的マナーや態度も身につけられるように、演習や介護技術の授業に取り組んでいる。実習施設の精査や見直しも実習ごとに行い、学生が実習において学習成果を出せるよう心掛けている。

5. 実習期間を1年次前期・後期、2年次前期・後期の4期に分け、学修進捗に合わせた段階的な実習をおこなっている。

6. 学生の多様化に伴い、実習前に実習施設と連絡を取り、個別に打ち合わせを行なっている。それにより、学生個々の特性を活かせるような実習内容になるよう努めている。受け入れ施設側の学生状況に対する理解も進んでいる。
7. 学生に授業アンケートを行い、結果を学科内で共有し、フィードバックしている。また、教員相互で授業見学をおこなう等、教員同士での授業内容のチェックを行なっている。
8. 年2回教育課程編成委員会を開催し、外部委員からの意見を聞く機会を設け、授業や実習指導内容に取り入れるようにしている。
9. 前期・後期共に定期試験および成績認定会議を行い、学則・細則の規定に則り単位認定を行っている。
10. 資格取得のための授業を独自に設け、必要な知識を習得できるよう努めている。成績が一定レベルに到達しない学生に対しては、空き時間や長期休暇期間を利用して補講を行なっている。
11. 厚生労働省で定められた要件に従い、教員を確保している。
12. より専門的な分野（医療分野、認知症分野、障害分野）については、その分野に精通した非常勤講師を確保し、目標到達に向けた授業を行なっている。
13. リモートでの参加ではあったが、介護分野における実践事例発表の研修に参加し、そこで得た知見を授業にも取り入れている。しかし、参加はその1回だけに留まり、十分とは言えない。
14. 学内委員会主催の研修や委員会に参加し、専門分野に限らず、学生の特性やその対応に関する学習及び取り組みを行なっている。しかし、参加できなかつたものもあり、十分とはいえない。

#### 【課題】

カリキュラム改正に伴う「求められる介護福祉士像」において、高い倫理性の保持をはじめ、利用者の尊厳、多職種連携等、より高度な専門性や人間性が求められている。それに見合った人材を育成するために、教員自身も過去に捉われることなく、より専門性や倫理性を学ばなければならない。

#### 【改善方策等】

教員が学ぶべき事項や目的を整理し、外部の研修情報と内部研修を照らし合わせて、計画的に受講し、知見を深めていく。

### (3) 教育活動 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1、2.

学校の理念に基づき教育課程をデザインしている。また、厚生労働省の認可を受け、その基準を遵守している。同時に、「WFOT（世界作業療法士連盟）認定校」「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定校」の第三者評価を活かした教育課程の編成とその実施方針を策定している。以上のことを学科の土台理念としつつ、継続してブラッシュアップしている。

3. カリキュラムは、項目1・2の認可・認定基準を満たしたものとなっている。また、カリキュラムは、教育課程編成委員会等のフィードバック等を受け、定期的にその内容の見直しを図ることで体系的な授業を展開する工夫を行っている。特に近年は、非常勤講師を含めた教員間の連携をより密に図ることに努めている。

4～6.

昨年度に続いて、教育課程編成委員会等のフィードバックを活かしながら業界を巡る動向を適宜把握し、学生のキャリア形成を育むような授業内容を検討する学科会議を定期的に開催した。

各授業開始時には丁寧なオリエンテーションを実施し、①シラバス②科目の位置付け③目的④到達目標⑤成績評価の方法と項目⑥授業計画等について説明を行った。さらに職業教育を最重視する観点から、

学内外の演習・実習の時間数を可能な限り確保し、展開方法を工夫しながら実施した。また、臨床実習では診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を取り入れる等の工夫を行い、演習・座学授業では、問題解決型授業と科目進行型授業の授業展開を分ける工夫を行った。

7. 昨年度に続いて、授業アンケートによる教員へのフィードバックを開講する全ての授業科目で行った。また、授業や個別面接の質を上げることを目的とした定期的な学科ミーティングで、教員間の相互フィードバックの機会を継続して設けた。

8.、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会等にて、卒業生や関連分野業界である病院・施設など外部関係者から評価を受け、その結果を積極的に学科運営と職業教育に取り入れている。

9. 成績評価ならびに単位認定・卒業認定は「学則」と「細則」に従い適切に行った。また、授業開始時に学生に対し評価・認定がどのような手続きの中で行われることを周知した。

10. 資格取得に向け受験対策授業や模擬試験等を計画的に実施した。

令和3年度も学校冬期休業中に教室を一部開放し、教員が分担出勤してサポートしながら、国家試験対策を行った。

11～14.

「学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育み」を実現出来る授業展開、及び学生への個別支援力を学科教員の成長テーマとしている。そのための共有スローガンとして「臨床力」「教育力」「地域貢献力」を掲げている。その実現のために、教員としての質の向上（臨床・社会活動での臨床能力向上など）を継続した。その結果、学科教員の学会発表や修士号の学位修得などの成果を上げることができた。また、関連専門職の動向を適宜把握しながら、各々の臨床能力向上のための研鑽内容を、学科会議の中で定期的に共有するよう努めた。

同時に、対外的な働きかけとして（一社）栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を開催した。

#### 【課題】

1 指定規則改正後の新カリキュラムが現 1・2 年生に適用されている。中でも大きな変更点である「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応するため、「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」の三つの柱を組み合わせた授業展開を図りつつ、学生個々の臨床基礎力を底上げすることが継続しての課題である。

2 1に対応するため、教員一人ひとりの「教育力」「臨床力」の向上とともに、「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」についての共通理解をより深化させていくことが課題である。

## 【改善方策等】

### 課題1・2に対して

- (1) (一社) 栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を継続開催する。
- (2) (1) の継続開催を通して「診療参加型臨床実習」が求める課題をより明確にし、教員一人ひとりと臨床実習指導者、ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の関係施設等や業界団体等と具体的に共有する。
- (3) (2) で共有した課題に対して、その解決のための教育方法の工夫（「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」等々）や教材の開発などをより体系的に進める。
- (4) (3) の課題解決のためのロード・マップを作成し、定期的なミーティング（カリキュラム・ミーティング）を実施する。

### (3) 教育活動 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 規定に則り年度内に2回の教育課程編成委員会が実施され、その方針が定められている。
2. 1年次に基礎科学と基礎医学、2年次に臨床医学、2年次後半から3・4年次にかけて専門分野を学ぶといった修業年限に応じた到達レベルや時間の確保はできている。
3. 修了に係る授業時数や単位数を提示しており、その内容は必要な技能を修得するための適正な時間数となっている。また、シラバスに行動目標を適宜記載し、必要な教育到達レベルを提示している。
4. 現行のカリキュラムは、他の養成校より実践的な教育を目指したものとなっており、学外実習の時間数も十分である。なお、2020年度からの入学生を対象とした指定規則の改正にともないカリキュラムの一部再編を実施し、学生に過度な負担とならないような工夫もした。
5. 関係施設等や業界団体等との連携により、定期的に教育課程編成委員会を開催している。その中で話題となった内容を踏まえ、シラバスに反映させ授業内容を適宜検討している。

6. 1年次にアーリーエクスポージャー（早期体験学習）として、医療機関と介護老人保健施設の見学や体験を実施し、医療・介護を学ぶ心構えを身につけ学習意欲を高めている（基礎実習）。3年次の評価実習、4年次の臨床実習では、実習指導者とともに患者・利用者と接しその段階に合わせ経験を積んでいる。このように、各学年に応じた実践的な職業教育を行うことができている。しかし、2021年度1年生は新型コロナウイルスの影響で学外実習としての実施は困難なため、見学先から非常勤講師が講義を行うことで対応した。

7. 学生による授業アンケートが実施され、教員にフィードバックされている。また、その一部の内容について、教育課程編成委員会の中で関連業界等と共有が成されている。授業アンケートに関してはより良い情報収集を目的として項目等の改善を行い、パイロットテストが実施されている。

8. 各実習施設に可能な限り足を運び、様々な意見を聴取している。また外部団体である一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価認定を受けている。平成30年度にこの評価機構から再審査を受け、「適」の評価をいただき、2019年度から5年間有効となっている。2020年度からの指定規則改正により第三者評価が必須となったため、認定審査を今後も5年ごとに受ける予定である。

9. 成績評価、単位認定、進級・卒業認定の基準は、各科目のシラバスや学則ならびに理学療法学科細則に記載・提示されており、明確になっている。また、成績評価、単位認定、進級・卒業認定の基準を適切に運用するため会議により客観性を確保している。

10. 4年次後期に、国家試験対策が理学療法総論という科目としてカリキュラムに位置付けられている。また、6で述べた関連分野における実践的な職業教育も資格取得に関する指導の中核となっている。なお、卒業後も連絡を取れるようにし、国家試験不合格者に対しても指導できる体制を整えている。

11. 臨床経験並びに人生経験豊富な教員が確保されている。また、常勤教員に限らず、非常勤講師においても開講以来10年以上継続して担当いただいている方が多くいる。さらに、個々の教員により授業を完結させるのではなく、教員間で連携し内容の統一化を図っている。

12. 卒業生を含めて関連業界と連絡を密にし、優れた人材確保の足掛かりにしている。

13. 関連業界との連携により、教員の研修に取り組んでいる。

14. 外部のコンサルティング会社によるキャリア開発や、学内委員会等の研修会に全教員が参加できた。

#### 【課題】

現状は早急に対応が迫られる課題は特にないと考える。

しかし、教員の能力開発の機会を、基本的に社会情勢を見ながら継続的に与えられるべきであると考えている。

学内の取り組みは、社会情勢に合わせ柔軟かつ積極的に対応していく予定である。  
また、教員間のコミュニケーションをより密にしていくことが重要と思われる。

**【改善方策等】**

各自の分野における活動内容の把握に務める。  
定期的なミーティングの実施に務める。(学科ミーティング)

### (3) 教育活動 看護学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。教育理念に基づき看護学科の特徴を踏まえ、シラバスに基づいて実践している。また、実施方針も明確に策定し運用している。
2. 指定規則および「看護師養成所運営に関するガイドライン」における「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を参考指標として、ディプロマポリシーを策定している。  
3年間の修業年限で完結できるように学習時間の確保をしている。
3. 「看護師養成所運営に関するガイドライン」に沿って、体系的、段階的に学習がすすめられる目標が達成できるようカリキュラムを編成している。
4. 令和3年度もコロナ禍で遠隔授業が多く、演習授業においても練習不足で習熟まで至らなかった。臨地実習も感染者発生や感染予防対策で学内実習に切り替えたことがあったが、シミュレーションやロールプレイ実習、看護過程の思考強化など臨地実習に近い学びを提供することができた。
5. 実習施設との連携は講師派遣や実習依頼、教育課程編成委員会での交流や情報交換などで、意見をいただき、カリキュラムに反映できるよう努めている。

6. 教育課程に基づき、実習を段階的に配置するなど体系的に実施している。コロナ禍でインターンシップを経験できなかったが、実習病院への就業希望が一定数あることから、実習の学生の意識において職業と結びつける役割は大きいと感じる。

7. 外部講師なども含めた全科目の評価がある。授業アンケートから個々の改善点も見出ししており、次の授業案や講師選定に活かしている。

8. 昨年度同様、実習施設アンケートでコミュニケーションと看護技術に課題があるといただいている。令和4年度施行のカリキュラム改正では、この課題を克服できるよう留意した。

9. 成績評価・単位認定、進級、卒業判定は学則及び学科細則に基づき適正に実施している。全科目の評価方法について確認し、シラバスに明記している。

10. 国家資格取得のため1年次から一貫した指導体制をとっており、年間授業予定にも組み込んでいる。学年全体への働きかけと、1人ひとりの学力面・メンタル面に応じた支援をしている。

11. 年度途中で複数の教員の退職があり、クラス運営、講義の実施、実習指導などに変更を余儀なくされ、十分な対策が取れなかった点もある。しかし、学生への影響を最小に抑えるために、これまで以上に教職員間の情報共有を心掛け、体制強化を図っている段階である。

12. 実習指導に関しては、施設との連携強化に努め、協力が得られるよう取り組んでいる。また、実習施設から講師派遣をしていただき、医療現場の実態に即した教育が実現できるように取り組んでいる。

13、14.

日々、指導のあり方の打ち合わせや県看護系教員協議会協議会の研究会への参加、オンラインでの教育方法の工夫等研修会の参加、学校内での学生指導のあり方などへ参加しているが、まだ十分な活用まで至っておらず、努力の途上である。

#### 【課題】

- ①教職員間の情報共有が充分でないため問題解決過程が円滑に機能しているとは言えない。
- ②コミュニケーション力と看護技術力育成について、確実な方法が未確立。

#### 【改善方策等】

- ①問題解決過程を強化するためには、教職員一人ひとりが、情報を精査する判断能力と、有効に解決へと協働する訓練が必要である。本学科に合った着実な方法を日常の事例から教員が学び、体得できるような体制整備を行う。
- ②令和4年度施行の新カリキュラムでは、この課題を解決するための編成に留意した。

### (3) 教育活動 助産学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。  
教育理念に基づき、変化する社会に対応しつつ、多職種を養成する教育機関としての特色を反映することも加味して、シラバスを作成している。
2. 「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」における「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、また全国助産師教育協議会の示す「ミニマムリクワイアメンツ」を到達レベルの参考指標としつつ、本学科のディプロマポリシーを明文化している。  
卒業時に求められるレベルを学生にも到達目標として示し、1年間の修業期間の中で効率的に学べるよう工夫している。
3. 「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」に基づき、カリキュラム編成を行っている。
4. covid-19による看護基礎教育での学修環境の変化が助産学生の準備性に影響している。そのため入学時の学生の知識や学習姿勢への働きかけは従来そのままでは不十分であり、よりきめ細かい導入が必要だったと振り返る。

5. 年2回開催する臨地実習指導者会議で、本校の教育課程について説明し、意見交換を行っている。特に到達度については繰り返し伝え、理解を得ている。
6. 助産学実習は分娩介助という医療行為を実践する場であり、対象者の権利を擁護するために、学生であってもその責任を自覚した取り組みと、対象者の安全を保障するための連携に努めている。
7. 今年度は、教員が授業アンケートのワーキンググループに所属し、学校全体の取り組みに参入する形で、本学科の授業評価についても検討し、試験的实施まで完了。令和4年度から実質化。
8. 実習施設とは日頃から意見交換がしやすい関係構築に力を入れている。臨地実習終了時には、実習指導に関するアンケートを実施し、準備、実習内容、教員との連携等について確認を行い、修正が必要な場合は対応している。
9. 成績評価・単位認定に関しては、看護師養成所指定規則及び本校学則に基づき厳正に実施している。全科目の評価方法について点検し、シラバスに明記している。
10. 年間計画に基づき実施している。講義での学びを実習につなげるよう取り組んできたが、4で述べた学生の準備性の変化に十分対応できたとはいえない。
11. 教員間の関係を良好に保ち、やりがいをもって職務に当たれる組織づくりと、離職防止に努めている。役割については円滑な業務遂行を維持できるよう分掌している。常勤・非常勤職員を含め第一線で活躍する人材を講師として確保できるよう努めている。
12. 講師や実習施設との関係を重視しながら、情報収集や人脈の拡大に努めている。
13. 14.  
学内での研修には積極的に参画している。  
また、学生の困難事象については会議等で共有検討している。特に受け身傾向の学生については国家試験直前まで行動を変容させるにいたらず、苦戦を強いられることとなった。主体性を引き出し、学生に自ら思考させるための教育実践について意見交換の頻度を上げ、各人が従来の方法にこだわることなく、年度内から準備を始めている。

#### 【課題】

短い修業年限の中で学生の状況に対応し、効果的に学ばせる方法の開発。

#### 【改善方策等】

- ①学生の準備性の的確な把握
- ②入学時ガイダンスで学生自身が見通しを立てて戦略的な学び方ができるよう説明

重要度、優先性について教員が研究し、学生に都度明示しながら、「なぜ必要なのか」「どうすれば習得できるのか」学生自らが問いを立て、納得しながら主体的に学ぶ発展した学習を支援する。

③母性看護学の学びを過信せず。復習を強化し、助産学への移行が円滑に進む入学後早期の取り組みの実施。

④教員は教えすぎないように心掛け、「考えさせる」ことに主眼をおいた方法に挑戦する。

### (3) 教育活動 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	2
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	2
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1～3.

教育課程は保健師助産師看護師法の看護師等養成所指定規則及びガイドラインにのっとり作成し、それを基に学校の理念、方針に沿って年間計画を立案している。

現在のカリキュラムは、体系的に編成できているが、次年度に控えているカリキュラム変更の準備や見直しはできていない状況である。学生にとって何が必要か、大切かを検討し、各看護学の教育内容を吟味して、編成していく必要がある。

また、通信教育のため、家庭学習において「課題集」という形が基本となっているが、内容的が多いため提出期限に間に合わずに就業期間延長をしている学生も1割程度いる。科目ごとの内容的には実施可能なボリュームであるが数科目で躓くことで多重課題になっている現状である。

4. 本学科は就業中の准看護師が看護師の国家資格を取得するために学習をしている学科である。厚生労働省の見解としては「実技はすでに修得されていると考える」とあるため、本学科での教育のコアは「科学的思考」と「根拠」である。各科目で、強化できるよう工夫している。

5. 実習先の意向や指導体制を考慮して、打ち合わせを行なっている。時期や人数、指導方法も教員間で相談しながら情報共有をしている。各実習施設には、実習打ち合わせの際に学校及び学科の方針、年間

計画、履修進度などの説明と実習対象学年の情報を提供し、実習時の学生の情報や実習へのご意見も頂き次年度の実習がより良いものになるようにしている。

6. ガイドラインに基づき、各領域で2日間の見学実習を体系的に実施している。

7. 臨地での実習に関してはすべての領域が終了してから、アンケートを実施している。内容に関しては教員間で共有し、実習施設にはフィードバックを行っている。授業の評価に関しては、アンケートを取っていない。アンケートを取り教員にはフィードバックを行い、授業に反映できるようにする。

8. 実習の打ち合わせに行ったときに、前回の実習についての講評を聞き、要項に組み入れている。添削教員会議（1回／年）での意見を基に実習内容を検討し修正している。

9. 成績評価基準は学則上にて明らかにされている。実習Ⅰ・Ⅱは、評価表に従い公平性のある評価を意識している。単位認定・卒業認定も学則・細則・規定に明記してあり実施している。

10. 資格取得の意義などは、折に触れ学生に伝えている。また、少人数制の指導は継続している。コロナの影響にて学生に直接指導する機会が減っていたが、オンラインを活用し業者や教員などの補講を実施した。

11. 教員の数も徐々に増え、専門的に指導できる教員の体制が整えられつつある。しかしマニュアルがないためマニュアル作成の準備をしなければならない。

12. 全国通信制看護学校協議会や栃木県看護系教員協議会への参加などで様々な情報を収集できている。新人教員に関しては、その領域の教員が授業内容や方法などの指導を行っている。

13、14.

各教員に必要な研修などの案内ができていないことと、コロナの影響にて研修会が中止になっているため参加の機会は減っている。教員不足もあり、担当以外の科目についても授業を行っている状況で時間の確保も難しい。教員は徐々に増えているため時間にも少しずつ余裕が出てくると考えられる。

今後は積極的に研修会などへの参加を促し、様々な場で得た情報や知識を職員全体で共有できるようにしていく。

#### 【課題】

①自宅学習である「課題集」について、考える作業ではなく転記する作業が多く、多重課題となり提出遅延の学生が目立った。また、学生からも課題の内容について意見が挙がるが多かった。

②教員の数が少ないため、複数の領域を担当する状況があった。時間の余裕がなく、授業評価の実施ができていない状態である。

### 【改善方策等】

- ①課題集においては、適宜マークシートへ変更する。提出期限も多重課題にならないようにする。ただし、マークシートになることで適当にマークをつけて提出することを防ぐため、課題の点数と教員の指導により単位認定試験の受験許可を出すなどの制限をつけることとする。
- ②教員も確保され、学生に満足な教育・支援を行う準備は整いつつある。今後は各教員が経験を積んでいくことが必要になる。授業評価も実施して各教員にフィードバックする。
- 学科内での研修や研修会などへの参加を促し、学科で共有できるように伝達講習の機会を設ける必要性もある。

### (3) 教育活動 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 厚生労働省で定められた基準に則り、教育課程を編成し、学校の教育理念にも基づいている。実施方針も細かく定められている。
2. 3年間の修業年限に応じた教育到達レベルが設定されている。それに合わせて学習時間は確保されている
3. 入学から卒業までの3年間を通して授業時数や単位数は適正な時間数となっている。また、カリキュラムには教育理念に基づいて体系的に編成されている。
4. 1年次より学外実習を取り入れることで、未来の歯科衛生士像をイメージしやすくなっている。職業人となった時に必要なコミュニケーション能力を入学後の早い段階で身に付けさせている。
5. 令和3年度は教育課程編成委員会の開催が後ろ倒しになってしまったが、歯科衛生士の職能団体である歯科衛生士会や関連施設とは連携を取り、カリキュラムや教育方法を検討している。

6. 臨地臨床実習は歯科診療実習所をはじめ、大学病院や小学校、保育園と幅広く実施している。巡回指導も随時実施しており、実習指導者と意見交換を行い、特に実技面での習得に力を入れている。
7. 全教科で授業アンケートを取り、学生からの評価を受けるようにしている。また、互いの授業の見学をして、意見交換している。
8. 教育課程編成委員会（各分野の外部委員が参加）では、学生や実習の状態を伝え、多方面からの評価を受け改善に努めている。
9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準に関しては、学則及び歯科衛生学科細則ならびに各科目のシラバスによって決められており、それらに沿って判定している。判定に際しては成績資料を基に、会議を開催し学校長の認定を受けている。
10. 国家資格を取得するために、国家試験対策を学年の教員中心に行うと共に外部講師や業者による各種講座、模擬試験等を行っている。本年度は全国平均を上回ることができた。
11. 教員については指定規則の教員資格を満たした人材を確保しており、教員歴の浅い教員についてはその育成に努めている。非常勤講師については実践の場で活躍している人材を確保している。
12. 卒業生や実習先等からも広く情報収集し、優れた教員を確保するようにしている。
13. 教員の資質の向上のため、歯科衛生会や関連団体の開催する研修会や講習会に参加し、教員間の知識の共有に繋げている。
14. 教員間で学習会を開催し、お互いの問題解決に繋げている。

#### 【課題】

教育の質向上の一環として、学科内の学習会を開催し問題解決の場としたが、体制としてはまだ発展途上であり、質の向上には至っていない。

#### 【改善方策等】

引き続き、学習会や研究授業等の機会を通して授業づくりや教員が協力して学生を育てられる体制を構築していく。また、教員が学ぶべき事項や目的を整理し、外部の研修情報と内部研修を照らし合わせて、計画的に受講し、知見を深めていく。

#### (4) 学修成果 介護福祉学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 教務と学生サポートセンターが連携を取り、学生の希望や特性に合わせて個別指導（求人紹介・履歴書添削・模擬面接等）を行い、学生の希望に沿った就職を実現している。
2. 学生をレベル別や苦手分野別のグループに分け、授業コマ以外に補講授業や個別課題を実施している。国家試験導入以来、5年連続で合格率全国平均を上回っている。しかし、2年連続100%合格とはならなかった。
3. 学生の特性に合わせて個別指導を行ってきたが、1年生で1名、学習についていけず、今後の単位修得の見込みも立たない為、退学になってしまった。
4. 就職先からの情報や、卒業生とのネットワーク等の構築により、概ね把握できている。しかし、各卒業年度とも、一定の割合（1割程度）で、音信不通や所在不明の卒業生がいるのも事実である。
5. 就職先からの卒業生に対する評価をもとに、就職するにあたって、教科書の内容だけでなく、実践に必要な具体的知識や技術も修得できるよう授業に取り入れている。

#### 【課題】

学生の特性が年々多様化し、その対応方法の道筋について、再構築する必要がある。学生の置かれている課題に対して、その都度対応はしているが、過去の成功事例が通用せず、解決に至らないケースが多々ある。保護者との協力体制が築けない場合もあり、足踏み状態が続いている。

#### 【改善方策等】

学生の特性に関する知識を教員自身が学ぶ。保護者との協力体制については、教員が結論を急ぐあまり、理解を得られていない可能性が高いので、まずは、信頼関係の構築に努める。

#### (4) 学修成果 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 昨年度に続いて、就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、学生本人・学生サポートセンター職員・学科教員との連携の中で目標の達成を図った。その結果、就職希望学生全員が就職した。
2. 資格取得率向上に向け、1年次から4年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を継続した。また、毎年为国家試験問題を分析し出題科目毎の学習課題を明確にした上で対策を行った。定期試験も、2回に分け行い、国家試験本番に配慮した対策の一環として行った。その中で、卒業生の国家試験対策の結果を詳細に分析し、4年次学生の結果と比較することで、より精度の高い合否の可能性などを把握することが出来るようになった。同時に、学生一人ひとりへのよりの確なフィードバックを行った。その結果、全国平均を上回る合格率を達成することができた。
3. 主担・副担の2教員による学年担当制ならびにキャリアデザイン担当教員を配する中で、学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育みを支援した。特に、定期的な個別面談等の中で、学生個々の課題とストレングスを明確にすることに重点を置いた。同時に、ドロップアウト・リスクの高い学生にキャリアデザイン担当教員が個別サポートを継続した。最終的には、退学人数は昨年度比1名減の結果となった。
4. 作業療法学科独自の卒業生の勉強会を継続的に実施して来たが、新型コロナウイルス感染症の流行により、活動が限定的となってしまった。しかし、Zoomなどの活用により、最低限の活動継続を維持することができた。
5. 項目4の活動から得られるフィードバック内容を、学科教育活動の改善に活用した。特に、協働しての地域社会への情報発信などを、学科のSNSを活用し行った。

#### 【課題】

ドロップアウト・リスクの高い学生に対し、複合的な視点からのサポートを行うこと。

**【改善方策等】**

- (1) 学習面のサポートを重視した支援を、1・2年生の該当学生については特に重点的に行う。
- (2) 心理面のサポートについては、学生の家族をも含め行う。(可能な範囲で経済的側面へのサポートも必要に応じて対応)

#### (4) 学修成果 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 学生と密にやり取りをしており、その都度必要な情報を提供できている。また、関連業界の動向は把握できており情報の共有もできている。

2. 令和3年度は、新卒・既卒生共に昨年度よりも合格率の向上が認められた。全国的な合格率は昨年に引き続き低水準で79.6%であった（昨年度79.0%）新卒者のみの合格率も86.4%であり、全体として難易度が高かった年であったと言える。

その中で新卒95.0%（19/20名）を出せたことは昨年度の要因分析の結果を対策に反映できた結果であるとする。5名の既卒合格者に関しても、本年度の難易度を考えると継続的な対応ができていた学生は合格の可能性が高くなる傾向はあり、引き続き卒後の対応を継続する意義があるとする。

3. R3年度は7名の退学者が出た。各退学者の要因など状況はしっかりと把握できており、その中には家庭のやむを得ない事情によるものもあった。退学に若干傾いた学生の心理面や学習面への対応をすることで引き続き退学率の軽減に努めたい。在籍者数は高水準を確保できており（106名：94.6%）基本的な対応に問題はないとする。以上を意識しつつ、教員が学生の学修習熟度に関心を持ち、早めの対応をすることが今後の課題であり、今年度対応の重点目標でもある。

4. 様々なネットワークにより情報が入ってくるため把握できている。

5. 就職先が県内周辺地域であることから、年を重ねるごとに各方面での活躍をしている卒業生が増えた。それらの人材を講師として積極的に関わってもらおうようにカリキュラムを構成している。

#### 【課題】

退学率の軽減を図る

#### 【改善方策等】

基本的な対応を継続するが、データ等を積極的に活用しより早期に問題を発見する。

#### (4) 学修成果 看護学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 就職活動は学科と学生サポートセンターが連携し支援しており、100%の就職を達成した。
2. 国家試験合格は、学習成果として重要な意味を持つ。昨年より合格率は向上したが、全国平均より低い現状である。要因として感染予防対策で自宅学習を多くし、学内での集中時間の確保ができなかったことが一因であり、学生個人の学力に応じたフォローが学内で不足したこともあると考える。感染状況を予測してより早期からの工夫が求められた。
3. 学科が一丸となり、担任を始め教員1人ひとり学生に丁寧にかかわったことで昨年より大幅な減少になっている。
4. 卒業生が就職した実習病院から1回／年卒業生を招き、在校生と交流する機会をもうけている。その際、卒業後の様子を把握できるが、実習病院以外の把握は難しい。
5. 4を理由にデータ化までいかず、情報収集にとどまっている。

#### 【課題】

資格取得率が全国平均に届いていない。

#### 【改善方策等】

原因は多くの学生が学び方を確立していると言えない面があり、学校以外の学習が習慣化されていないためと考察する。

1年次から資格取得の意義、重要性を認識できるよう十分に働きかけ、空いている講義時間などを利用し、学内での学習時間を確保する。

2年次は1年の対策に加え、週に1回の夕方補講、3年次はグループ別のゼミ方式での学習時間の確保など全体的に学科内での学習時間を増やしていく。

#### (4) 学修成果 助産学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. オンライン面接等、covid-19以前と異なる形態の就職活動に対し、情報を得ながら早期の全員内定を目標に支援に当たり、11月には達成した。
2. 学科開設以来、全国平均越えを達成してきたが、今年度は叶わなかった。(3)教育体制で述べたように、コロナ禍で従来とは異なる経験をしてきた学生像の分析が不足し、対応の遅れにつながった。学生の成績の伸びを注視しつつ国家試験前日まで支援を行ったが、力及ばなかった。
3. 2名が退学した。1年間という期間内で目標達成を支援するうえで、学科内の努力だけではカバーしきれず、手詰まり感が残ってしまった。
4. 年2回開催するhome coming day!が定着し、卒業生の動向を一部把握する機会となっている。
5. 卒業生の活躍については就職先からの情報収集を行い、動向を把握するにとどまっている。教育課程に反映させる目的では行っていない。

#### 【課題】

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>①学ばせ方の見直しによる国家試験全員合格</li> <li>②入学した学生すべての目標達成</li> </ol> |
|---|

#### 【改善方策等】

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>①(3)教育体制 改善方策参照。</li> <li>②より早期に学生の背景を把握し、学科内外の力を結集して、目標達成を支援する。</li> </ol> |
|--|

#### (4) 学修成果 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	3
2	退学率の低減が図られているか	4
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 卒業生の国家試験合格率は新卒 85.2%（ストレート卒業した者 88.6%）であった。全国平均が 86.2% であるためほぼ全国平均程度の水準である。
2. 退学者、休学者は減少している。学業に行き詰まりを感じている学生とは、時間を設けて面談を実施している。個人の状況に合わせて学習を継続できるように関わっている。
3. 実習施設で働いている学生は少ない。在校生へ向けての卒業生からの講話依頼時に連絡を取っているが、全員に連絡をするわけではない。そのため、評価する情報がない。
4. 卒業後学生からの連絡がない限り、時間を追っての学生の動向は把握していない。卒業生からの情報が取れていないので活用はされていない。

#### 【課題】

- ①資格取得に関して、通信課程の学生に合った段階的な計画をたてる
- ②卒業後の連絡方法が決められていないため情報収集が取りにくい

#### 【改善方策等】

- ①前準備として従来の国家試験対策方法の見直し
- ②卒業する前から、連絡方法（LINE、電話、メールなど）について学生に知らせておく

#### (4) 学修成果 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 就職希望の相談、支援、指導等は担当教員の他、全教員でサポート体制を組んでいる。
2. 昼間部夜間部ともに全国平均以上の合格率となった。（夜間は100%）  
国家試験に対する意識を早くから持たせた。対策実施自体は早かったとは言い難いが、集中して取り組ませたこと、量を積んでいったことが結果につながったと思う。
3. 教員は学生に寄り添い、問題がある学生に関しては教員間で情報を共有してきたが、進路変更で退学した学生がおり、歯科衛生士の魅力を伝える事が出来なかったと考えている。
4. 卒業生の転職等の相談がある場合は可能な限りの支援をしている。
5. 実習先の卒業生からも多々情報や意見をもらい、教育活動や、実習指導に生かしている。また、卒業時には職能団体への入会を促し、帰属意識を形成していく。

#### 【課題】

学生に対して、迅速な対応ができていない。後手に回ることが多く、満足度を上げることができなかった。  
また、国家資格取得に関しても、学科全体での対策や姿勢の統一感が不足している。

#### 【改善方策等】

段階的な目標を設定し、学年に応じた指導を細かくしていく。入学時から将来の目標を明確にし、3年後のイメージを持たせるようにする。なりたい自分へ、今どうすべきかを自分で考える力をつけていくよう学年を超えた関わり合いをし、全教員でサポートする。

## (5) 学生支援

Q	評価項目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 就職支援の専門部署として、学生サポートセンター内にキャリア部門を配置し、入学後からキャリア教育を実施している。また就職活動に関しては担任と連携し、履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するガイダンスを実施するとともに、就職に関する個別の相談に適切に対応している。コロナ禍による社会情勢に応じてリモート面接等にも対応すべく取り組んでいる。さらに求人情報の開示等充実した就職情報を提供できる支援体制の整備に努めた。

2. 学生の相談については、相談室の専門カウンセラーおよび学生の状況に合わせて学生サポートセンターの職員が対応している。カウンセラーとして公認心理士を配置するとともに、学生が利用しやすい相談室の環境整備を行ったことで、相談数が増加し学生のメンタルヘルスに繋がっている。また、相談事案の解決のために学校全体で取り組んでいる。さらに、年度初めには、教員が個別面談を実施し、学生の状況把握と信頼関係の構築に努めている。

3. 日本学生支援機構の各種奨学金の他に、国の教育ローン、県の修学資金制度等をはじめとした公的機関の奨学金制度、病院の奨学金制度や民間の奨学金制度の紹介・案内及び取次事務を積極的に進めている。学費納入が困難な学生には分納・延納などで柔軟に対応しているほか、入学金の減免制度、一部学科に関しては社会人経験者の学生向けに教育訓練給付制度も導入している。また、両校とも令和2年度から開始された修学支援新制度（給付型奨学金＋授業料等減免）の対象校として認定されている。

4. 定期健康診断を実施し、記録を管理するとともに、有所見者へ適切な対応をしている。また、各号館の窓口に常備薬を置き、保健室及びAEDを設けている。

5. 例年、スポーツ大会、うづま祭など学生の自治会活動の企画・運営およびボランティア活動に対して積極的に奨励・支援を行っているが、令和3年度はコロナ禍により思うような実施には至らなかった。

6. 必要に応じて学校近辺のアパートや駐車場の紹介を行っている。  
昨年度より、コロナ禍の新しい生活様式の実践に伴い、感染症対策として各号館には自動手指消毒器や非接触型検温器、学生利用スペースには飛沫防止アクリルパーティション等を設置した。また図書館や学習スペース等では利用制限をかける等の感染対策を講じている。
7. 対応が必要な学生がいる場合、適宜保護者に連絡し、問題の解決にあたって適切な連携を取っている。また、後援会（保護者会）を組織し、学校教育活動に関する情報を提供して連携にも力を入れている。
8. 卒業後、いつでも就業上の悩みや離職・再就職の相談などに応じるといった支援を行っている。また、国家試験に合格することができなかった学生に対しては、対策講座の聴講や模擬試験、図書館の開放等の体制を取っている。さらに、同窓会を組織し、卒業後に研究会を開催するとともに研究活動に対応すべく医学関連ジャーナルおよび電子書籍などの医療情報を提供している。
9. 社会人経験者および社会人学生の学修支援、履修制度の整備として、社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則で定め、適切に認定している。また、経済的な支援環境としては一部学科に限られるが、教育訓練給付金の指定を受けており、給付条件に当てはまる社会人学生が利用できるようになっている。
10. 高校からの依頼で模擬授業や進学ガイダンスを積極的に引き受けている。例年、栃木県専修学校各種学校連合会主催の進路連絡協議会や全体研修会等に参加し、高校の教員と情報を共有するなどの連携を取っている。

#### 【課題】

本校では、学生支援の一環として近年問題になっている学生の学力低下に対する支援の強化に取り組んでいる。入学後の学習へのスムーズな移行、基礎学力不足からの休・退学の防止を目指し、その効果的な支援の方策を講じることが課題である。

#### 【改善方策等】

学力低下に対する支援の取り組みとして、基礎学力の向上を掲げ、初年次教育をとりいれている。入学前教育として添削学習や学習セミナーを実施し、さらに入学後の基礎教育として放課後学習会や課題配信、個別学習相談等を実施し、個々に合わせた支援を展開していく。

## (6) 教育環境

Q	評価項目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 施設・設備は、現行の教育に対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応は勿論の事、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。

令和3年度は、人数が多く教室が広い看護学科について、後方に座る学生がプロジェクターに映し出される文字や映像が見やすいように、視聴覚室と一部教室後方にモニターを設置した。また2・3号館の一部教室にAirdog（空気清浄機）を導入。施設としては一部の外壁補修や網戸の新規取付け等も行った。

2. 実習先は、法令の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。

実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置、もしくは定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。

3. 防災訓練は、法令及び消防計画に基づき毎年1回実施し、消火器・非常ベル等の消防設備は、法令に基づき年に2回の点検を実施している。

なお、コロナ禍につき密を避ける為、学生を避難集合させず、避難経路や避難行動を学生に紹介する動画コンテンツを作成し、それに代わるものとしている。

4. 学校安全計画、学校保健計画、危機管理マニュアルを整備している。

### 【課題】

長年使用している施設は、場所によって改修・補修の必要があるため、改修計画表を更新しながら、中長期的に改修・補修をしていく必要があると考えている。

### 【改善方策等】

作成した改修計画表を基に、緊急性やコストを鑑みながら改修・補修を進めていくとともに、今後新たに修繕・改修が必要になる箇所は見積書を取り、改修計画表へ随時追記していく。

## (7) 学生の受入れ募集

Q	評価項目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	4
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 年間で11回開催予定だったオープンキャンパスは、コロナの影響により9月は中止、2月は3月に入試がある助産学科のみ開催した。校内ガイダンスや会場ガイダンスは積極的に参加し情報提供を行えた。高校訪問は4回実施し、主に訪問先の教職員の方向けに入試情報等の情報提供に取り組んでいる。
2. 栃木県専修学校各種学校連合会のルールに基づき、願書受付時期の設定や広報活動を行っている。また、ホームページでは情報公開のデータを最新にして公開している。入試選考内容もAO入試・推薦入試・一般入試・社会人入試を実施している。
3. 学校案内及びホームページ等の記載にあたっては、真実を明瞭・公正に記載している。教育成果についても真実を正確に伝えている。また、オープンキャンパス、高等学校校内ガイダンスでは学校のSNSやコンテンツ動画について情報提供を行っている。
4. 全日制課程、通信課程各学科の学納金は社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており、妥当なものと考えている。また、金額や減免制度は募集要項・ホームページ等に明示している。
5. 入学選考基準については学科毎に設定し運営している。入試判定会議では、理事長・校長・統括部長・事務局長・学科長が出席し、それぞれの視点から判定を行い、可否を決定している。
6. 願書受付開始以降、出願があった場合には随時報告を行い、現在の募集状況の周知を行っている。運営会議では、年度初めに定めた目標値と比較した月毎のデータを提示している。

### 【課題】

3. コロナ渦の中で、動画コンテンツによる情報発信を募集活動に繋げる事ができなかった。SNSでは、教員紹介をブランディング委員会と連携して発信する事ができた。本校の魅力を発信し募集活動に繋げていく必要がある。

### 【改善方策等】

3. 動画コンテンツ充実やSNSの強化。

## (8) 財務

Q	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 厳しい予算編成の中、収支のバランスを注視し学納金収入等を安定させながら運営努力をしている。
2. 予算は計画に従って妥当に執行されており、超過が見込まれる場合には適正に補正措置を講じている。
3. 会計監査は法人本部の所管で適切なスケジュールで監事による監査（外部）及び会計事務所による定期監査も実施し定期的なアドバイスを受け、指摘事項がある場合には適切に是正措置を講じている。
4. 財務情報はホームページにて公開している。

### 【課題】

まだ年度によって学納金の増減があるので財務状況が不安定にならぬよう管理を徹底し、一定水準の収入確保をしつつ法人全体で今後の対策を検討していく。

### 【改善方策等】

学納金収入の安定性継続  
経費削減等の継続実施及び検討

## (9) 法令等の遵守

Q	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. 専修学校設置基準及び専修学校の教育に関わる各種の法令を遵守している。また、法令等の指定学科にあっては、その基準及び取得可能な資格に関する諸法令を遵守し適正な運営をしている。

令和3年度は、看護学科・助産学科の指定規則変更に係るカリキュラムの変更申請があり、問題なく完了している。令和4年度より新カリキュラム適用。

2. 個人情報については「個人情報保護基本方針」・「個人情報の保護に関する規則」を定め、対策を取っている。

3. 毎年新年度初めに前年度の自己評価を学科・部署ごとに行い、現状や取り組むべき課題等を報告書としてまとめた上で、その年の重点課題・運営方針と併せて教育活動や学校運営の改善に努めている。評価体制をより整備するための働きかけは一部に留まっており、関連する国の動きを注視しながら引き続き柔軟に対応していく。

4. 自己評価及び学校関係者評価結果の報告書をはじめとした学校の諸情報は、ホームページの「情報公開」にて公開している。

### 【課題】

国の動き、方針に沿いつつも組織の現状に即した自己評価の実施体制ならびに評価項目の検討・構築。

### 【改善方策等】

継続的な情報収集を行う。また、別途法人内で実施している各部門方針評価との連動を試みる。

## (10) 社会貢献・地域貢献

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

### 【評価に対する根拠（令和3年度の取り組みと状況など）】

1. コロナ禍により例年通りの人的資源および物的資源の面での貢献ができなかったが、自治体からの依頼による学校施設の貸与および協会・団体研修への学校施設・機器備品の貸与を積極的に実施し、社会貢献・地域貢献を行った。
2. 定期的な地域清掃活動やボランティア活動、各種義援金活動を実施した。また、福祉系学科においては授業の一環として実習先からの依頼をはじめとしたボランティア活動を積極的に奨励・支援して実施している。
3. 地域の公開講座への講師派遣や国の機関における事業の介護委託訓練生の受入れ及び、一般教育訓練・専門実践教育訓練の指定認定を受けるなど積極的に制度利用者を受け入れている。

### 【課題】

社会貢献・地域貢献およびボランティア活動を法人として積極的に奨励、支援しているが、コロナ禍で活動が制限されてしまった。

### 【改善方策等】

今後は、社会情勢をみて組織的に支援していく。また、活動実績を把握するとともに結果を学内で共有できるように体制を整えていく。